

## 交流がもたらす「希望」

日本人だけでなく、どの国の人々も他国に対するさまざまな偏見を持っているかもしれません。人と人が理解し合うためには、きちんと触れ合うことが大切です。そうすることでお互いを知り、学び、正しい理解を深めることができます。

言葉が通じなくても、触れ合うことで伝わるものがあります。

国境を越えた交流。次世代に託された未来への可能性は、ここから始まります。



### 「インスパイア・ジャパン」とは

普段あまり日本を訪れることのない海外の青少年たちを招き、日本の子どもたちと交流を行う事業です。この事業は、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟が文部科学省の委託を受けて、日本ボーイスカウト愛媛県連盟との共催で実施されたものです。

今回は、英語を話せることを条件に、10か国から2人ずつ招かれました。来日した青少年たちは、岩手県と愛媛県の二手に分かれ、それぞれの地域で交流を行い、文化交流を行いました。

「インスパイア・ジャパン」は、文化や歴史などに関して相互理解を増進するとともに、国際的視野を持った青少年の次世代リーダーを養成することを目的に行われました。

また、日本の伝統文化だけでなく、現代日本文化（クールジャパン）について認識を深め、東日本大震災での被害状況を共有すること（防災に対する意識高揚、間違った風評の払拭など）も、重要な事業目的とされました。

# Inspire Japan 2012

## ～未来への架け橋～



1 清水市長と叶本教育長への表敬訪問

2 臥龍山荘の見学

3 真剣な眼差しで取り組む書道体験

4 着付けをした青少年たち

5 参加者みんなで記念撮影

6 楽しく踊るインターナショナルナイト

7 大洲農業高等学校での物作り体験

8 八幡浜工業高等学校の協力によるロボット操作体験



今回の異文化交流を通して、海外の青少年のみならず、大洲の青少年たちにも良い刺激になりました。

大洲市内では、清水市長や叶本教育長への表敬訪問から始まり、各施設での日本文化体験、地元のスカウトたちや中高生との交流などを行いました。その他、内子町で歓迎会が開かれるなど、他市町と協力した心温まるもてなしがなされました。

訪れた10か国のうち、モザンビーク共和国・モロッコ王国・コロンビア共和国・ウクライナ・マケドニア旧ユーゴスラビア共和国の5か国から10人の青少年たちが愛媛を訪れ、8日間（9月12日～19日）、国立大洲青少年交流の家を拠点に活動を行いました。

「インスパイア・ジャパン  
愛媛会場」

カヌー体験・いもたき

9月15日(土)、先に愛媛県入りしていた海外の青少年たちと、国内参加者(地元の中高校生など)が初対面しました。

国立大洲青少年交流の家で交流会の開会式が行われ、その後、脇川でカヌーを体験しました。参加者たちは、慣れないカヌーに戸惑っていましたが、徐々にコツをつかみ、勢いよく漕げるようになって姿も見られました。

大洲の青少年たちは、積極的に海外の青少年たちとコミュニケーションを漕ぐなど楽しそうでした。



カヌー体験終了後、夕食のため各班に分かれていもたきを作りました。材料を切るころからスタートし、それぞれ分担しながら調理を進めていきました。いもの皮むきをしたり、にんじんを切ったりして、みんな一生懸命に取り組んでいました。

夕食会では、出来上がったいもたきを、みんなおいしそうにほおばりました。海外の青少年たちは、何度もおかわりをするなど、日本独自の味と食感に満足していました。また、同時に非常食体験として、アルファ米を試食しました。



大洲芋コロッケ作り・柔道体験

9月18日(火)の午前中、大洲農業高等学校の生徒とともに、大洲芋コロッケ作りを行いました。それぞれエプロンに着替えた後、会話を楽しみながら協力して調理を行いました。

参加した生徒は「普段接する機会が少ない海外の人と、直接触れ合うことができて楽しかった」と話しました。

大洲農業高等学校では、大洲芋コロッケ作りの他にも、組織培養見学やウチヨウランを用いたストラップ作りなどを行いました。



午後からは、大洲高等学校に赴き、日本文化の代表的な武道である柔道を学びました。

海外の青少年たちは、それぞれ柔道着に着替えて講師のレクチャーを受けました。青少年たちはお互いの柔道着姿を見せ合ったり、写真を撮るなどうれしそうでした。

実際に受け身や投げ技の練習を行い、テレビで見るとは一味違う、生の柔道を楽しんでいました。

その後、八幡浜工業高等学校の協力でロボット操作体験を行い、日本文化体験の全日程を終えました。





## 体験を振り返って

今回、海外の青少年たちには、さまざまな文化体験を通して日本をはじめ、大洲のことを多く知ってもらいました。

どの体験学習も、青少年たちにとっては初めての体験で、日本の良さ、大洲の良さを存分に味わってもらったと思います。

この事業を通して、海外の青少年たちに感じたこと・楽しかったことを聞いてみました。



モザンビーク共和国  
アデリート アントニオ ナランゴ さん

### ～大洲の自然が大好き～

大洲を訪れてまず驚いたことは、大自然が広がっていたことです。自国には、こんな大自然はないので強烈な印象を受けました。

日本に来てから、多くの日本食に出会うことができました。現地の人たちとも仲良くなることができ、うれしかったです。

カヌーは初めての体験で、最初は戸惑ったけれど、慣れてくるとこんなに面白いものはないと思いました。自国に帰ったら、大洲で体験したことをみんなに伝えたいです。

貴重な経験をさせてくれた大洲のみなさん、ありがとうございました。



モロッコ王国  
ザオール レミア さん

### ～いもたき初体験～

私は、生まれて初めていもたきを食べました。モロッコにはない味付けで、とてもおいしかったです。特にさといもやこんにゃくは初めて食べる食材で、最初は驚いたけど、新たな食材の発見が面白かったです。地元の子どもたちはとてもかわいくて、一緒に協力して作ることができて楽しかったです。

大洲に来て、みんなとたくさん写真を撮ることもできて、日本語もたくさん教えてもらいました。私は、「はじめまして」や「よろしく願います」という言葉が好きです。

忘れられない思い出をありがとうございました。

## 未来をつなぐ

近年、日本を含め世界情勢は複雑さを増しています。領土問題・人種差別など、簡単には解決できない問題が数多くあります。

しかし、この問題は自国だけでは解決できません。私たちの生活は、近隣諸国をはじめとした多くの国々や人々の協力の下に成り立っています。

私たちは無意識のうちに、「日本人は…」とか「海外の人は…」と判断してしまいがちです。人と人とは直に触れ合っこそ、お互いのことを本当に理解することができるのだと思います。

今回の事業を通し、青少年たちは貴重な体験をすることができました。他人から聞いた話や、メディアからの情報だけで「人」を判断してしまうことは怖いことです。

幼い頃から他国の人と直に触れ合う機会を持つことは、今後の国際社会において、大変重要なことだと思います。

これからの次代を担う子どもたちは、未来をつなぐ可能性を秘めています。国境など関係のない、お互いの手を取り合える未来へ。